

編集後記

年齢、障害の有無、性別、言語、人種、など多様なユーザに配慮した「誰もが使いやすいデザイン」は、差別のない社会を目指すSDGsの「誰一人取り残さない」という理念に関係深く、省エネルギーや環境負荷軽減と並んで重要なことだと思う。ユーザに近い分、デザインによって満足度を上げることが下げることも容易である。満足度が低いものは反感を買い、どんなに良いものでも世に残っていかない。しかし、多様なユーザを意識してデザインすることは、一朝一夕には難しく、多くの労力と経験が必要なことが導入に二の足を踏んでしまう原因ともなる。「誰もが」を「万人」と捉えてしまい、これが難しさを助長させる一因なのかもしれない。

本誌の特集は、5つのキーワード：ユニバーサルデザイン、アクセシブルデザイン、バリアフリー、インクルーシブデザイン、人間中心設計に対して、産学官と幅広い専門家の方々に執筆していただきました。どの手法も誰もが使いやすい物を作り出そうとする根幹は変わらず、各解説や

事例紹介では一つの手法に囚われずに良い面を複合してデザインしていることがわかります。そして、「誰もが」というよりは「できる限り多くの人」が使いやすくしようとしていることが読み取れ、最初からハードルを高くするのではなく、目の前にある困り事を解決することから始めて、少しずつ輪を広げていけば、「誰もが」に近づくことができる。そのようなことが本特集で紹介されていますので、参考になれば幸いです。

今回の特集を企画するにあたっては、ほとんどの執筆者と面識がないにもかかわらず、急なメールや電話、オンラインでのミーティングに応じていただき、そして、企画に賛同していただき、お忙しい中を執筆していただいたことに深く感謝いたします。また、編集にご協力いただいた会誌出版委員会、学会事務局、編集事務局、UD部会の皆様に心より感謝申し上げます。

(吉留 忠史 記)

◇第63巻第3号(2024年3月号) 予定目次◇

一般記事

リレー記事 「FACE the future」《第62回》日常歩容解析技術：足元からヘルシーライフの未来へ

黄 晨暉 (日本電気)

特集 データで駆動するシステム制御—理論と応用の新展開と最前線—

総論 データが駆動する制御系設計のこれまでの流れと最新の研究動向 金子 修 (電気通信大)

解説 リアプノフ方程式のデータ駆動解法 東 俊一 (京都大)、坂野幾海 (名古屋大)

解説 制御の言葉で強化学習 定本知徳 (電気通信大)

解説 近似モデルとデータを統合した制御器パラメータ調整—ベイズ最適化によるアプローチ— 藤本悠介 (北九州市立大)

解説 データ駆動型安定余裕推定 種村昌也 (信州大)

解説 定値制御系に対する外乱抑制のためのデータ駆動制御器調整 増田士朗 (東京都立大)

解説 データベース駆動型PID制御の新しい展開

木下拓矢、脇谷 伸、山本 透 (広島大)

解説 目標応答はどうやって決めるのか?—データ駆動制御・予測の新しいアプローチ— 金子 修 (電気通信大)

事例紹介 油圧ショベルのデータ駆動型掘削支援制御による作業効率化への取組 洪水雅俊 (コベルコ建機)

事例紹介 実験データにもとづく運動リハビリテーションシステムの自動調整の試み 中谷真太郎 (鳥取大)

事例紹介 Arduino/LEGO教材を利用したPID制御の教育事例—経験則、モデルマッチングからデータ駆動制御、外乱補償まで— 川田昌克 (北九州高専)

一般記事

技術報告 (2023年度SICE技術賞受賞紹介記事)

位相型回折格子を用いたラテラルシヤリング干渉計による距離計測 藤井絵理 (アズビル) ほか

(第63巻第2号)

特集号ゲストエディタ：SI部門ユニバーサルデザイン応用システム部会

特集号編集WG：矢代大祐 (三重大学)、板井志郎 (広島工業大学)、伊藤博通 (神戸大学)、大塚章正 (山口東京理科大学)、小林 洋 (大阪大学)、吉留忠史 (神奈川工科大学：幹事)

2024年度 会誌出版委員会 (五十音順)

委員長：永原 正章

副委員長：山下 智輝

相沢 宏明

飴谷 充隆

板井 志郎

伊藤 直史

伊藤 博通

井上 正樹

大谷 雅之

大塚 章正

金子 修

川喜田佑介

川瀬 利弘

小木曾公尚

小林 洋

豊田 充

西尾 唯

西野 敦洋

信川 創

林部 充宏

藤原 正浩

堀川徳二郎

矢代 大祐

保田 俊行

山田 広明

吉留 忠史

吉野 公三